

従属文を伴うdadurchに関する考察¹

—— < dadurch, dass > は話し言葉で < 文法化 > するのか——

山崎 雄介

0. はじめに

現代ドイツ語の話し言葉に比較的多いとされる現象のひとつとして「枠外配置」が挙げられて久しい。大まかに言うと、従来、枠外配置が生ずる原因として指摘されてきたものは、次の4点のいずれかということになる：

- 1) 煩雑な文の回避²
- 2) 後からの付け加え³
- 3) 伝達内容の重要性（レーマ化）⁴
- 4) 大規模なSatzglied⁵

まず原因1は、文が煩雑になるおそれがあるとき、そうした文の見通しを利きやすくするためにひとつ、ないし、場合によってはそれ以上のSatzgliedを枠構造の後ろへと出すということが、特に話し言葉において行われることが少なくない、とするものである。原因2は、話し言葉においては、原稿などが無い限り、考えながら喋るということになるので、話しているうちに枠を閉じてしまった後で、言い忘れていたものを付け加え、結果として枠外配置になってしまう、ということであり、これは

¹ 本稿は2005年10月1日に行われた早稲田大学ドイツ語学・文学会研究発表会において筆者が行った口頭発表の原稿に加筆・修正を加えたものである。

² ENGEL (1988): S. 201

³ ENGEL (1988): S. 201; EISENBERG (1999): S. 391; DUDEN (1995): S. 790

⁴ EISENBERG (1999): S. 391

⁵ DUDEN: S. 790; EISENBERG: S. 391; ENGEL: S. 316; HELBIG/BUSCHA (1988): S. 569

多々指摘されているところである。また、これも頻繁に言われていることであるが、伝達内容の重要性によって、即ちレマ化の意図を以って、文中のある Satzglied を枠外配置することもある、というものが原因 3 である。そして、Satzglied が大規模 (umfangreich) であることが、特に枠外配置を招く条件として指摘されているが、これが原因 4 である。さらに、いずれの場合も、もっとも頻繁に枠外配置される成分として Nachfeld に現れるのは前置詞句であると言われている。

さて、Satzgliedの規模に顧慮するのであれば、特殊な前置詞句ともいうべき「da(r)-前置詞」⁶ に従属文やzu不定句が続くような構造になっている文、例えば

ich möchte noch hinweisen **darauf**, daß diese Barbaren hier dieser
Herkules ist kein schöner Mensch eher ein Muskelprotz oder ein
Gladiator.⁷

のような文を忘れてはならない。たしかにこの前置詞句の見かけは小さいが、その実、従属文ないし zu 不定句をまるごと「da(r)」の部分が受けているのであるから、そういった意味ではこの前置詞句の内容的な規模は大きいということになる。

そこで、このような構造の文における「da(r)-前置詞」は枠外配置されやすいのかということについて調査を進めるうちに、不可解な事実に行き当たった。調査対象とした「da(r)-前置詞」のうち、従属文を伴う dadurch⁸のみが突出して高い頻度で枠外配置となっているのである。

1. 調査方法と調査範囲

本稿では文例を収集するにあたり、話し言葉と書き言葉に関してそれぞれ以下のコーパスを使用した：

⁶ いわゆる学校文法において「前置詞と人称代名詞の融合形」と称されるものをここでは「da(r)-前置詞」と呼ぶことにする。

⁷ Freiburger Korpus: FR104 (コーパスに関しては注9および10参照)

⁸ 従属文またはzu不定句を伴う「da(r)-前置詞」を調査の対象としたが、dadurchは従属文のみを受ける。コーパスで調査した結果、zu不定句を伴うdadurchは皆無であった。

- 話し言葉のコーパス⁹

Deutsches Spracharchiv und Datenbank Gesprochenes Deutsch (Institut für deutsche Sprache, Mannheim) のうち, 4 つのコーパス (Dialogstrukturen, Freiburger Korpus, Pfeffer Korpus, Zwirner Korpus) より, 1960 年から 1980 年までの 21 年間のデータを抽出,

- 書き言葉のコーパス¹⁰

Archiv der geschriebenen Sprache (Institut für deutsche Sprache, Mannheim) のうち, 2 つのコーパス (Mannheimer Korpora 1+2) より, 1960 年から 1980 年までの 21 年間のデータを抽出.

そして, はじめに話し言葉について, 以下に挙げる 16 項目の「da(r)-前置詞」:

daran, darauf, daraus, dadurch, dafür, dagegen, darin, damit, danach, darüber, darum, darunter, davon, davor, dazu, dazwischen

に従属文または zu 不定句が続く構造となっている文を上掲の話し言葉のコーパスより選び出し, 次にその中で「da(r)-前置詞」の枠外配置の出現頻度が比較的高い項目に関して上掲の書き言葉のコーパスの文例を参照した. 話し言葉と書き言葉とを比較するのには, 当該の現象が前者においてより頻発する傾向にあるということを示す目的がある.

2. 調査結果

前章で述べた通り, まずはじめに話し言葉における「da(r)-前置詞 + 従属文 / zu 不定句」に関して調査し, 続いてその結果に基づいて書き言葉におけるそれに関して調査した.

⁹ 詳細については以下のURLを参照のこと:
<http://dsav-oeff.ids-mannheim.de/DSAv/DSAVINFO.HTM>

¹⁰ 詳細については以下のURLを参照のこと:
<http://www.ids-mannheim.de/kt/projekte/korpora/>

2.1. 話し言葉の調査結果

第 1 章に挙げた話し言葉のコーパスから「da(r)-前置詞」に従属文または zu 不定句が続く構造となっている文を選び出し、さらにその中から枠外配置と認められるものを確認し (B) た結果、それらの出現数及び出現頻度は下表のようになった (「da(r)-前置詞 + 従属文 / zu 不定句」出現数 = A, A のうち枠外配置出現数 = B, 枠外配置出現頻度 = B/A):

gespr				
da-präp	(A)	(B)	B/A x100 (単位は%)	採否
daran	191	6	3.1	N
darauf	221	11	5.0	Y
daraus	12	0	0	N
dadurch	101	31	30.7	Y
dafür	136	5	3.7	N
dagegen	43	0	0	N
darin	79	2	2.5	N
damit	112	6	5.4	Y
danach	16	0	0	N
darüber	115	10	8.7	Y
darum	85	2	2.4	N
darunter	4	0	0	N
davon	165	8	4.8	Y
davor	15	1	6.7	N
dazu	171	5	2.9	N
dazwischen	0	0	-	N
合計	1466	87	5.9	
採用項目 合計	714	66	9.2	

各項目の枠外配置出現頻度 (B/A) に注目してみたい。多くが 5% 前後の頻度を示している一方で、例えば darin のように頻度が比較的低いものも見られる。ここでは、それら出現頻度の低い項目 (daran , daraus , dafür , dagegen , darin , danach , darum , darunter , dazu , dazwischen) 及び頻度は比較的高くとも母数 (A) が小さい項目 (davor) を考慮に入れず、頻度が 4% を超えていて、かつ、その項目に従属文か zu 不定句が続く構造を含む文の出現数 (A) が 100 を超えている 5 項目 (darauf , dadurch , damit , darüber , davon) のみに焦点を絞り込んで考察の対象とするが、ここで、書き言葉との比較対照に関して採用を決めた項目のうち、dadurch のみが際立って高い頻度 (30.7%) を示していることに注目したい。

2.2. 書き言葉の調査結果

前節で述べたとおり、話し言葉では考察の対象を darauf , dadurch , damit , darüber , davon の 5 項目に限定し、書き言葉に関してはこれら 5 項目のみについて調査した。結果は下表の通りである：

geschr			
da-präp	(A)	(B)	B/A x100 (単位は%)
darauf	469	4	0.9
dadurch	88	2	2.3
damit	177	1	0.6
darüber	196	4	2.0
davon	171	7	4.1
採用項目 合計	1101	18	1.6

前節に挙げた話し言葉における調査結果と比較すると、いずれの項目も話し言葉より低い頻度を示していることが見て取れると同時に、書き言

葉における dadurch には話し言葉に見られたような際立った枠外配置の頻度がないということが分かる。

3. 調査結果に関する考察

2.1.に挙げた表を見て分かることは、それぞれの「da(r)-前置詞」が枠外配置となる頻度は、大多数の「da(r)-前置詞」については5%以下であるという一方で、dadurch のみが30%を上回る突出した数字を示しているということである。dadurch とこれ以外の「da(r)-前置詞」は文法上、同じカテゴリーに分類されるはずであるが、dadurch だけがこれほどにまで突出した数字を示すのは、一体なぜだろうか。話し言葉において従属文を伴う dadurch には、意味のうえで何か特別な役割が付与されているのだろうか。また、もしそうだとすると、それはどのような役割なのだろうか。また、2.2.に挙げた表には dadurch の突出が見られないが、これにも何らかの理由があると考えられるべきであろう。

3.1. 語順¹¹の操作

dadurchに関して検出された31個の文例のうち、いくつかを挙げる。もとは、どのような従属接続詞に導かれるものであれ「da(r)-前置詞＋従属文／zu不定句」という構造となっている文を検索したのであるが、dadurchに後続するものはことごとく従属接続詞dass¹²による従属文であった：

- (1) ja sie haben mir ja mir ja erzählt daß daß sie jetzt so ne ganze menge mehr mieter haben **dadurch daß** die fabrik da heraus

¹¹ 本来「語順」とはWortstellung、つまり単語の並び順のことであるが、本稿では「語順」という表現を文肢の配列順序（Satzgliedstellung）としてこれを用いる。「語順」という表現は人口に膾炙したものであり、誤解が生ずることはないと論者は判断する。

¹² コーパスより検出された文例は旧正書法で転記されているため従属接続詞dassはdaßと表記されている。

is die die kleiderfabrik ja.¹³

- (2) S2: obwohl im entwurf vielleicht anders auch sein könnte daß
das muß ja nich mittels darstellung von gewalt passieren
S3: hm.
S2: **dadurch daß** man daß man leute eben animiert indem sie
gewalt sehen ihre aggressionen loszuwerden¹⁴
- (3) +p+ und +g+ ich ,+ wenn ich jetzt richtig über die Statistik
Bescheid weiß +, schon +g+ im ersten halben Jahr konnten
nachweislich +g+ acht Personen vom Unfalltod gerettet
werden **dadurch** ,+ **daß** der Rettungshubschrauber mit einem
Arzt binnen kurzem an der Unfallstelle war +p+ +, .¹⁵
- (4) bei uns hat sich jetzt die Sache verzögert **dadurch** ,+ **daß**
diese ganzen Arbeiterstellenplananträge sehr spät gekommen
sind +, ¹⁶
- (5) so zum Beispiel werden jetzt vor Ostern die Eierpreise
gehalten **dadurch, daß** man .. einfach die Einfuhrkontingente
verringert hat, so daß wenig ausländische Eier hereinkommen,
besonders polnische, die sehr billig wären, kommen sehr
wenig herein, und dadurch wird der Preis bei uns gestützt für
die Landwirtschaft.¹⁷
- (6) Das ist uns ebe zunichte geworden **dadurch, daß** mir meine
Tante alles versprochen hatte und hat nix gehalten, gell? ¹⁸

¹³ Dialogstrukturen: DS036

¹⁴ Dialogstrukturen: DS047

¹⁵ Freiburger Korpus: FR056

¹⁶ Freiburger Korpus: FR113

¹⁷ Freiburger Korpus: FR114

¹⁸ Pfeffer Korpus: PF202

まず、これらの文例に、dadurch を直前の枠の中へ入れるという操作をしてみると、次の(1a)から(6a)のようになる：

(1a) ... daß sie jetzt **dadurch** so ne ganze menge mehr mieter haben **daß** die fabrik ...

(2a) S2: ... das muß **dadurch** ja nich mittels darstellung von gewalt passieren
S3: hm.
S2: **daß** man ...

(3a) ... schon im ersten halben Jahr konnten nachweislich acht Personen **dadurch** vom Unfalltod gerettet werden, **daß** der Rettungshubschrauber ...

(4a) bei uns hat sich jetzt die Sache **dadurch** verzögert, **daß** diese ganzen Arbeiterstellenplananträge ...

(5a) so zum Beispiel werden jetzt vor Ostern die Eierpreise **dadurch** gehalten, **daß** man ...

(6a) Das ist uns **dadurch** ebe zunichte geworden, **daß** mir meine Tante ...

操作を加えたこれらの文を見てみると、dadurch と後続する従属文とが、離れてしまっているものがあることが分かる。例えば(1)と(1a)とを比べると、dadurch は枠の前半に置かれており、dadurch と dass 従属文とが極めて離れているということが見て取れる。書き言葉とは違い、話し言葉では文は常に流れ続けており、読み返しができないことから、本来は密であるはずの両者の関係が明確にならず、聞き手に誤解を与えるおそれが出てくる。

3.2. Kontaktstellung

では、さらに(1a)の語順に操作を加えて、次のようにしてみるとどうだろうか：

(1b) ... daß sie jetzt so ne ganze menge mehr mieter **dadurch**
haben **daß** die fabrik ...

このようにすると、意味的な関係の深い要素同士が遠く離れてしまっている、という先ほどの問題が若干解決されたように思えるが、しかしながら、これでは *dadurch* が *mieter* の Attribut であるかのような印象を与えかねず、この語順も好ましくないと言わざるを得ない。このように考えると、もはやこの *dadurch* は枠内では行き場を失ってしまい、後続する従属文との密接な関係を臭わせながら、なおかつ一回きりの発言の中で誤解の生じることのないように文を構成するためには、枠が閉じた直後の位置しか「安住の地」は見当たらなくなってくる、

以上のことから、場合によって *dadurch* は誤解を避け、後続する従属文との距離を近づけ「近接配置」(Kontaktstellung) とするために枠外配置せざるを得ない、と考えることが可能なのではなからうか。

3.3. Kontaktstellung を原因と考えることの限界

しかしながら、前節で言及した誤解を避ける目的での Kontaktstellung はあくまで(1)のようなタイプにのみ通用する話であり、例えば(5)と、これを变形させた(5a)を比較してみると、これは全く通用しないということが分かる。つまり、(5)のような文では、*dadurch* をわざわざ枠外配置にせずとも後に控える従属文との距離が離れておらず、Kontaktstellung の目的で *dadurch* を Nachfeld に出したとは考えられないのである。

また、*dadurch* と従属文との Kontaktstellung に枠外配置の原因を求めても、当該の現象全てについての説明がつかないばかりか、従属文を後ろに持つ *dadurch* を含む文例のうち、枠外配置となっている事例が 30 パーセントを超えているのは何故なのかということに関しても、全く説明がなされていないことになる。後続する従属文に係る *dadurch* が含ま

れる発話がほぼ3回に1回は枠外配置となっており,しかもその従属文はことごとく従属接続詞 *dass* によるものなのである.これは看過できないことであり,従来指摘されてきた「煩雑さの回避」の他に原因を探さねばならないのではなからうか.

3.4. 発話の意味内容から

されば,(5)で *dadurch* が枠外配置となっている原因は何であろうか.発話の意味内容に注目してみたい.ここではまず「イースターを前にして卵の価格が保たれる」ということが言われ,その後で具体的に「どのような方法で価格を保っているのか」ということが説明されている.つまり国外からの輸入を調整することによって(調整しているので)卵の価格を保っているのであるが,この「によって(ので)」という部分に,等価ではないものの意味的に近似する従属接続詞 *indem* や *weil* の意味が含まれているのではなからうか.換言すれば,ここで *dadurch* が枠外配置となっているのには,誤解を避ける目的ではなく,これら *dadurch+daß* をあたかもひとつの従属接続詞であるかのように見なす話し手の意識が作用していると考えられるのである.

このように考えて,*dadurch* が枠外配置される原因を聞き手の誤解を回避するための *Kontaktstellung* にあるとした前出の(1)を再び眺めてみると,これもまた,*dadurch* が後続する従属接続詞 *daß* と合わせてひとつの従属接続詞としての役割を担っていると見なすことができる.つまり,*dadurch+daß* が2単語を合わせてあたかもひとつの従属接続詞であるかのように用いられていると見るのできるのである.3.1.に挙げた他の文例を観察してみても,同様のことが言えそうである.

例えば(3)はどうだろうか.たしかに,(3a)では *dadurch* と *daß* との間に若干の距離が認められるので,その意味では聞き手の誤解を避ける目的での *Kontaktstellung* を目的とした枠外配置であるとも考えることができるが,しかし,はじめの半年で8人もの事故被害者が死を免れたのは,医師を同乗させた救急ヘリコプターが短時間で現場に到着していたからである,という発話の意味内容に顧慮すると,*dadurch+daß* が *indem* や *weil* の意味で用いられていると考えて差し支えあるまい.さらに(4)

を見てみよう。(4)に操作を加えて(4a)のようにしたところで、特に誤解が生じるようには見えない。つまり、(4)には *dadurch* を枠外配置にせねばならないような理由が見当たらないのである。そこで発話の意味内容に目を向けてみると、事態が遅々として進まない理由を *dadurch+daß* 以下が述べており、これも従属接続詞 *indem* や *weil* に近いものが意識されていると考えることが可能なのである。

(6)にしても、たしかに(6a)の語順では誤解の生じるおそれが否定できないものの、発話の意味内容に着目すれば、叔母(伯母)があれこれと約束しながらそれを反故にしたことが理由・原因となって、事態は無に帰したのであり、やはり <*dadurch, dass*> が一体のものと見なされており、そこには *weil* や *indem* が潜んでいると考えざるを得ない。

4. 終わりに

4.1. 結論にかえて

前章で考察の対象とした事例は、たしかに聞き手に誤解が生じることを回避するために *dadurch* と *dass* との距離を縮めねばならないという話者の意識から生じた枠外配置と見ることもできるが、しかし、それは 2.1. に現れたような突出した 30% という数字の説明になっていないばかりか、なぜ *dadurch* に後続するのは *dass* 従属文ばかりなのかという疑問にも答えたことになっていない。その一方で、ここで挙げきれなかったものも含めてコーパスより検出された文例を見る限りでは、すでに *dadurch+daß* は話し言葉においてはひとつの従属接続詞として意識されはじめていると考えてよいのではないかと思われる。また、書き言葉には当該の現象が多くは見られないということは、まだ書き言葉においてはこのようなことは意識されていないと考えてよからう。こういった議論から、*dadurch+dass* は <文法化> 現象の「第一歩目」を踏み出しつつある、もしくは踏み出した、と推論することができまいか。されば、従来、枠外配置の発生原因であると指摘されてきたものとして本稿第 0 章に挙げた 4 つの原因に、場合によっては <文法化> 現象というものを付け加えることが可能となってくるかも知れない。

ただし、ここで当該の現象に関して文法化であると断言することには

少々危険性が伴うということも承知している。いくら 20 年分の話し言葉トランスクリプションを参照したとは言え、dadurch に従属接続詞 dass が後続する構造の文はわずか 101 例が検出されたに過ぎず、それらのうち dadurch が枠外配置となっている文例は 31 個である。つまり、サンプルが少なすぎるといった問題があるのである。

また、本稿で考察の対象としたのは 1960 年から 1980 年までの 21 年間のデータであるが、それ以前の年代についても同様の事例を収集し、当該の現象を通時的に観察する必要もあろう。さらに、文法化の段階としては、まだ話し言葉において定着し始めていると考えられるに過ぎない。2.2. の表からも明らかであるが、後続する従属文に引っ張られるような dadurch の枠外配置は書き言葉においてはまだ単なる「例外」的事例である。つまり、まだ「第一歩目」なのである。話し言葉での定着から書き言葉への移行といった推移が見られるかどうかということも含めて、今後も継続的に観察することが不可欠であろう。これらの問題点については稿を改めることとしたい。

4.2. 展望

同じ「da(r)-前置詞」ですでに従属接続詞として本来とは異なる新たな意味を付与されて文法化して定着したものとしては damit が挙げられる。もとは手段や道具を意味するのみであった (dâr mit もしくは dâr miti : 古高ドイツ語) ものが、中高ドイツ語の時代には現在の womit の意味でも用いられるようになり (dâ mite など)、初期新高ドイツ語の時代に入ると後続する dasz 従属文を伴って現在の dadurch の意味で、さらには dasz もしくは auf dasz の意味を持つ従属接続詞として用いられるなど (da mit もしくは damit)、意味や用法が拡大してゆき、そして現在に至る。これと dadurch+dass をめぐる現在の状況とを重ね合わせると、何か新しいことが見えてくるのではなかろうか。

主要参考文献

- Duden (1995): Grammatik der deutschen Gegenwartssprache. Mannheim; Leipzig; Wien; Zürich: Dudenverl. 5., völlig neu bearb. u. erw. Aufl., bearb. von Günther Drosdowski u.a.; Bd. 4
- EISENBERG Peter (1999): Grundriß der deutschen Grammatik. Bd. 2. Der Satz. Stuttgart; Weimar: Metzler
- ENGEL, Ulrich (1988): Deutsche Grammatik. Heidelberg: Groos
- ENGEL, Ulrich (1994): Syntax der deutschen Gegenwartssprache. Berlin: Erich Schmidt. 3., völlig neu bearb. Aufl.
- GRIMM, Jacob & Wilhelm (1860): Deutsches Wörterbuch. Leipzig: Hinsel. 2.
- HELBIG, Gerhard & BUSCHA, Joachim (1988): Deutsche Grammatik: ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Leipzig: Verlag Enzyklopädie. 11., unveränd. Aufl.
- 川島 淳夫 (Hrsg.) (1994): ドイツ言語学辞典. 東京: 紀伊国屋.
- 山崎 雄介 (2006): 現代ドイツ語の話し言葉と書き言葉における従属文または zu 不定句を伴う「da(r)-前置詞」の枠外配置について. 早稲田大学文学研究科紀要第 51 輯第 2 分冊, S.181-192.